

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人体構造機能学Ⅲ	NSF11_003	必修	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小川 麻里子	kango	m.gawa	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	人体構造機能学Ⅲでは、骨の構造と機能、骨格筋の構造と機能、感覚の特性、視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚を司る器官の構造と機能を学び、神経系の構造と機能における学びを統合し人体の活動の仕組みを理解する。また、皮膚の構造と機能、体性感覚と内臓感覚、痛覚について学び、血液と自律神経・内分泌による生体の調節機構における学びを統合し、生体の防御機構と免疫を理解する。上記について課題学習等を通して理解し、その後の授業においてフィードバックとグループワーク等の意見交換を行い理解を深める。				
学習上の助言	本科目は、医療従事者にとって基礎となる科目であるため予習・復習が重要である。また、授業内容に関する質問は、授業中および授業前後に受け付けているので積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	・系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 第10版/著:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2018 ・「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック/編:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2019 [2冊指定]				
参考書	・人体の構造と機能 第5版/編:内田さえ、佐伯由香、原田玲子/医歯薬出版/2019 ・なるほどなっとく!解剖生理学 改訂2版/著:多久和典子、多久和陽/南山堂/2019 ・看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 第2版第5刷/編:日本生理学会教育委員会/医学書院/2019				
学生が達成すべき行動目標					
①	骨・筋の構造について理解し、身体の支持と運動について説明できる	NS(1)(4)			
②	全身の骨・筋を理解し、各関節運動とその調節について説明できる	NS(1)(4)			
③	筋収縮について理解し、その特徴について説明できる	NS(1)(4)			
④	感覚器の種類、構造、機能、感覚器の障害について説明できる	NS(1)(4)			
⑤	代謝と運動について説明できる	NS(1)(4)			
⑥	体温とその調整について説明できる	NS(1)(4)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	身体の支持と運動①②:骨格と骨の連結について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p308~318、ワーク p72~74 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
2	身体の支持と運動③④:骨格筋、体幹の骨格と筋について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p319~334、ワーク p73~79 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
3	身体の支持と運動⑤:上肢の骨格と筋について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p334~349、ワーク p80~81 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
4	身体の支持と運動⑥:下肢の骨格と筋について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p349~361、ワーク p82~84 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
5	身体の支持と運動⑦⑧:頭頸部の骨格と筋、筋収縮について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p361~382、ワーク p85~87 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
6	身体の支持と運動のまとめ フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p308~382、ワーク p72~87 課題:設問への回答(自宅学習課題)	3	
7	情報の受容と処理⑦:眼の構造と視覚について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p435~447、ワーク p95~96 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
8	情報の受容と処理⑧⑨:耳の構造と聴覚、味覚と嗅覚について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p447~455、ワーク p97~99 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1	
9	情報の受容と処理⑩:痛み(疼痛)について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p455~460、ワーク p99 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1	
10	情報の受容と処理⑦~⑩のまとめ	同時双方向型授業	教科書 p435~460、ワーク p85~99 課題:設問への回答(自宅学習課題)	1	
11	身体機能の防御と適応①:皮膚の構造と機能について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p462~468、ワーク p100 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1	

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

12	身体機能の防御と適応②:生体の防御機構について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p468~480、ワーク p101~102 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1			
13	身体機能の防御と適応③:代謝と運動について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p480~484 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1			
14	身体機能の防御と適応④:体温とその調節について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p484~491、ワーク p103 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1			
15	身体機能の防御と適応のまとめ	同時双方向型授業	教科書 p462~491、ワーク p100~103 課題:設問への回答(自宅学習課題)	1			
試	筆記試験						
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	5	5
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	定期試験(70%)で評価する。定期試験では、各単元の基礎知識を問う問題とし、教科書・ワークブック・授業毎に配布するプリントから出題する。				テストの返却をおこなう。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
その他	①	✓	課題③の各回の提出において「期日厳守の提出で1点」、「全項目の実施で1点」の計2点×15回の30点満点で評価する。 課題①②は、定期試験時にまとめて提出し、加点方式(期日厳守の提出で各2点、全範囲の実施で各3点の計10点上限)とする。				提出課題にフィードバックを記載し、返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
提出課題に関して、教科書の丸写しやネット、友人からのコピー等は不可とし、これらが発覚した際には未提出とし、再提出を求める。							
1~7回目の課題③(自宅学習課題)が10回目までに提出されない場合は、その回を欠席扱いとする。							
8回目以降は、Teamsを使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限のWifi環境を推奨します。また、動画視聴や課題のダウンロード等がありますので、通信容量制限がある場合は通信量に十分注意してください。							
Teams クラスへの入室が5分以上遅れた場合は、遅刻扱いとし、授業開始20分以上の遅刻は欠席扱いとする。							
今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります。							
教員の実務経験:作業療法士免許を有した後、10年以上の臨床経験を有する。また、解剖学専攻にて医学博士を取得している。 実践的授業の内容:教科書に基づいた講義だけでなく、教員の臨床経験を活かして実際の疾患や症状、障害など事例を挙げながら講義し、臨床での視点の一部を学ぶ。また、質問や意見交換を通じて他者とのコミュニケーションスキルも身に付ける。							